

学校名	新座市立栗原小学校
実施日	平成30年 1月27日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「**独自**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、あいさつ、返事、発言・発表を相手に聞こえる声ではっきり言えるように指導し、成果を上げている。(独自)	B	相手意識を持たせた指導を継続しており、あいさつができる児童は増えたが、返事や文末まで話すことに課題が残る。	A	・あいさつ運動では、よく声が出ている。しなければならぬときにできている。 ・返事、発表等教師が自信を持って指導を継続してほしい。
2	学校は、児童にめあてを示し、振り返りをさせる授業を行っている。(独自)	A	本時のめあての提示と振り返りを意識して授業を行っているが、教科によって、めあての示し方や振り返りの時間の確保が課題である。	A	・落ち着いて学習に取り組んでいる。継続して指導を。
3	学校は、清掃用具の使い方、清掃の仕方を指導して、きれいな教育環境を整備している。(独自)	B	「もくもく清掃」は継続して取り組んでいる。バケツを使ってぞうきんを洗うことになれてきたが、ほうきの使い方に課題がある。そのため、すみずみまで行き届いた清掃を意識させる必要がある。	A	・清掃は、行き届いている。 ・水回りの汚れが見受けられる。 ・ほうきの扱い方や雑巾の絞り方の指導を。

評価項目「**組織運営**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	主任を中心に協力して進めているが、役割分担、提案の検討等、部内の組織的活動をさらに活性化する必要がある。	B	・教師が経験を重ね、記録を残す等、次年度への引継ぎを行うこと。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づき学校経営を行っている。	A	PDCAサイクルが、十分に活用されていない所がある。振り返りを次への課題につなげていかなければならない。	A	・地域、保護者と連携し、引き続き体制づくりを行うこと。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	夏季休業中に不審者対応の研修をするなど、教職員での確認はできている。学校として変更した点をマニュアルに反映させ、周知徹底を図る必要がある。	A	・不審者についても、引き続き対応の指導を行うこと。

評価項目「**学力向上**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	A	「栗っ子の学習のきまり」や「栗っ子の生活のきまり」を、実態や新学習指導要領に則って見直さなければならない。児童は落ち着いて学習できている。	A	・学習ルールに従い、どの学級も落ち着いて学習に取り組んでいる。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を充実させた授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	授業力向上のため、教えることと考えさせることを明確にし、身に付けさせたい力が確実に身に付くよう適切な言語活動を設定し、見通しを持たせ、振り返りのある授業を実践していく。	A	・一定の子の発言に偏らないよう、全体を把握しながら指導を継続すること。

9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	A	学習指導要領や県の編成要領に基づいて作成した年間指導計画に則って指導を進めているが、学力の蓄積を意識した指導を行う必要がある。	A	・一人一人に目をかけた指導を継続すること。
10	学校は、英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	A	AETと担任が協力し、楽しく学習が進められている。担任が中心に授業を進めることもできてきた。ライティングについても、深めていかなければならない。	A	・児童は英会話に楽しんで取り組んでいる。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導し、成果をあげている。	B	元気にあいさつをする児童は増えてきた。場に応じた言葉遣いも学年に応じてできるようになってきている。	A	・成果は上がっている。 ・教師が率先して挨拶をすること。 ・「～です。」「～ます。」は、授業中の発言で、継続した指導を。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	月一回のアンケートや生徒指導委員会での情報交換など、実態把握と指導に努めている。大人の見えないところで行われることを意識し、児童の様子の変化や情報収集に尽力し、連携して指導にあたる。	B	・いじめと意地悪の境が曖昧で、受け取る側による。アンケートの継続により、引き続き早期発見を。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	A	廊下の歩き方やあいさつ、言葉遣いなど意識し、共通行動を図っていく。	A	・指導が成果をあげている。 ・廊下歩行がよく出来ている。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	外遊びはよく行っているが、室内を好む児童も多い。校内持久走大会があるときなどは、進んで走る児童も増えるが、年間通して、体育部としての取り組みが必要である。。	B	・年間通した意識の高い指導の継続を。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	栄養士が毎日「マロンメモ」を発行したり、掲示板を工夫したりして、意識を高めている。全校で配膳・片付けの仕方を統一する等、マナーの指導も共通して行っている。	A	・栄養士、給食部を中心とした取組に成果が見られる。 ・給食のメニューが充実している。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、PTA活動や地域活動の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	コミュニティスクールとして、学校運営協議会でも協議を行いながら、要望や意見等に対応している。保護者も協力的で、休みの日の行事なども教職員が自主的に参加している。	A	・定期的、継続的な連携協力が図られている。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	PC補助員を中心に、定期的にホームページの更新作業が実施されている。	A	・情報の公開は、充実している。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	学校応援団コーディネーターや各応援団団長を中心に、学校応援団のしおりを作成し、保護者が活動しやすい環境づくりを行っている。あいさつ運動や親子除草等も、保護者・地域の協力のもと、計画的に行っている。	A	・地域のイベントにも、教職員が積極的に参加している。